

## 序 文

本論文は訓大の助教授兼研究員佐々木輝雄氏の研究報告である。この教育学上の力作に対し、いはゞ門外漢である筆者が序文を書かせてもらうことを光栄に思いたい。内容はみられる通り、戦後数年間の吾国職業高校制度の体制が固まる迄の経過を制度史的に解明したもので、著者の実証的態度は結論に揺るぎ難い重みを与えているように思う。しかし、その学問的論評は筆者の任ではない。たゞ、職業訓練の一関係者として、受けた感銘を記して責を果したいと思う。

いかなる国でも労働者が存在する限り、社会制度如何を問わず職業訓練の制度がある。それはまぎれもなく“教育”の営みを含んでいるが故に、学校制度と融合するか、あるいは学校制度から深い援助を受けている。しかし吾国はさうではない。ささやかな技能連携を除いては全くと云ってよいほど学校制度から絶縁された異例な制度である。今日、我国の職業訓練制度が多く困難に逢着している事は識者の認める所であるが、その原因の一つがこの学校制度との絶縁にあることは明らかである。本論文によれば、この絶縁の原因となった“教育”側の責が奈辺にあるかを窺えるように思う。すなわち、戦後の教育刷新委員会の建議に一端は介間見られた“学校制度外の教育の機会均等”の理念が、単一学校体制の整合性の追求の中で消失し、その結果、『(1)職業高校教育の存在証明が不明確化し、(2)労働者から“教育の機会均等”が奪はれ、(3)職業教育全体の混乱と沈滞が結果』したとする著者の論証には納得させる力がある。著者が云うように『学校制度外の“教育”を同等と認め』る考へ方が、この時機から陽の目をみていれば、職業訓練も、今日よりもっと正常な姿で機能し得ていたように思う。

しかし、本論文は決して単なる歴史の解明ではなく、我国職業教育の在るべき方向に対して深い示唆を与えている。また、行論中で紹介された多くの考え方には職業訓練についても傾聴すべき事項が少くない。我々関係者は、

それらの中で、職業訓練の正しい位置付けについて更に思想を深めたいと思う。この論文が、職業訓練関係者の思索の糧になると共に、教育関係者の正当な評価の得られることを祈りたいと思う。

昭和50年3月

職業訓練大学校  
調査研究部長

宗 像 元 介

発行 昭和50年3月15日

発行者 職業訓練大学校

調査研究部長 宗像元介

職業訓練大学校

神奈川県相模原市相原1960

TEL (0427) 61-2111

正 誤 表

頁	誤	正	頁	誤	正	頁	誤	正
目次右21	課課題	課題	81 P.左 3	慾意	恣意	169 P.表 中	15,12	15,21
2 P.右18	撤す	徹す	81 P.左 33	滋養	涵養	〃	15,21	15,12
3 P.左16	教能	技能	83 P.左 34	労働	労働力	171 P.左 31	生徒	先生
4 P.左17	期待中等	後期中等	83 P.右 20	弊原	幣原	171 P.右 24	落ちつい	落ち
18 P.左 23	速力ニ	速カニ	83 P.右 31	健する	値する	172 P.左 30	ありやす	あります
18 P.左 24	再読	雨読	84 P.左 2	議会	議委員会	173 P.左 10	ちりざり	ちりちり
18 P.右 9	セラクク	セラルル	85 P.左 6	契約機関	契約期間	176 P.左 20	遅れ	遅れ
19 P.右 35	ティグ	タイプ	85 P.右 5	労働者	労働省	176 P.右 27	高等問題	高校問題
20 P.右 33	伺わ	窺わ	85 P.右 21	労働者	労働省	179 P.右 7	一躍	一蹴
22 P.左 17	伺わ	窺わ	88 P.右 34	school	school	183 P.右 20	かいか	いいか
22 P.左 35	伺わ	窺わ	90 P.左 8	デクット	ジット	189 P.右 28	基づき」	基き」
22 P.右 31	弊原	幣原	90 P.左 14	デット	デット	193 P.左 25	見解対	見解に対
22 P.右 35	弊原	幣原	94 P.右 13	備れ	備わ	195 P.左 32	会計	監督
23 P.左 14	可可能	可能	94 P.右 33	関口泰書	関口泰君	197 P.左 3	組織設	組織を設
25 P.右 24	適正	適性	95 P.右 16	労働者	労働省	197 P.右 25	増え	殖え
32 P.左 30	教育ク	教育ノ	96 P.左 17	短落	短絡	198 P.右 1	審議会	審議会
32 P.右 1	伺わ	窺わ	98 P.左 29	清案	成案	200 P.左 32	と合	と脱合
32 P.右 30	伺わ	窺わ	101 P.左 2	伺わ	窺わ	201 P.左 7	伺う	窺う
37 P.左 7	伺わ	窺わ	104 P.左 24	学校局長	教育課長	204 P.左 33	レーテブ	テーチブ
42 P.左 31	伺わ	窺わ	109 P.右 11	値段	価値	210 P.左 32	如故	何故
44 P.左 23	伺わ	窺わ	111 P.右 30	生徒	先生	215 P.左 24	—	59—60
50 P.右 12	学校学習	学校実習	116 P.左 32	相当教	相当数	227 P.左 1	管見	管見
52 P.右 31	伺わ	窺わ	116 P.右 24	求しよ	求しま	228 P.左 9	これから	これら
55 P. 16	Fatory	Factory	120 P.右 26	撤回	撤回	231 P.右 26	設ま	設け
55 P. 22	Physcal	Physical	128 P.左 28	捨	捨	231 P.右 33	オペテ	オペラテ
61 P.右 16	伺う	窺う	136 P.右 13	打解	打開	235 P.右 15	錯角	錯覚
62 P.右 31	学習中心	実習中心	137 P.右 16	伺わ	窺わ	238 P.左 18	べきの	べきもの
64 P.右 2	教業科	職業科	140 P.右 28	徒第	徒弟	238 P.左 34	なれば	よれば
79 P.右 10	第 1 1 回	第 1 回	141 P.右 12	権カ	権力	243 P.右 23	課程	教科課程
80 P.右 28	会」	令」	147 P.左 12	修業	修養			